花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

令和5年 祝開校150周年 吉浜小学校 ～ふるさとに誇りにもち、ともに学んで未来を拓く吉浜っ子～

高浜市立吉浜小学校
令和6年1月10日 №81

新年おめでとうございます

いよいよ令和６年が始まりました。新しい年がよい１年となるよう祈り、希望と期待を込めて進み始めるときですが、北陸地方を中心に大きな地震が起こり、多くの方が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。また、地震に伴う建物等の倒壊、土砂崩れによる建物の倒壊、道路の寸断により避難所で過ごされている方、孤立した集落で助け合って生活している方がたくさんみえます。被災されたみなさんにお見舞い申し上げます。

この高浜市でも大きな揺れがあり、「怖かった」「泣いてしまった」などと話してくれた子がいました。子どもたちの声や被災されたみなさんのことを考えると暗い気持ちになってしまいますが、被災されたみなさんが支え合い助け合いながら懸命に生活をされていることを思い、私たちもがんばって進んでいきたいと思います。

本日は、全校集会でも話した「むごい教育」について書きます。

戦国時代、駿河国を治めていた今川義元は、当時の習わしにより、竹千代（のちの徳川家康）を人質にとりました。その時、義元は家来に「竹千代に『むごい教育』をせよ」と命じました。家来たちは「『むごい教育』というのだから、厳しく鍛えよということだろう」と解釈して、早朝から竹千代を武芸に励ませ、読み書きなど学問を教え、一日が終わった夕方には厠で腰を下ろせなくなるほど厳しく鍛えてきました。

数日して、義元は、竹千代の養育係を呼んで尋ねました。「『むごい教育』をしているか？」すると、養育係は「『むごい教育』をしています。朝起きたときからすべて駆け足で行動させ、質素な食事を与え、休憩も最小限にして、剣術や槍術、馬術、学問などに励ませ、修行僧のように鍛錬しております」と報告しました。これを聞いていた義元は、語気を荒げて「それは『むごい教育』ではない」と怒りました。義元は、家来たちの様子を見て「お前たちには、私の考えがわからんのか。それは私の考える『むごい教育』ではない。竹千代には、贅沢な食事を与え、朝から晩まで美味しいものを好きなだけ食べさせよ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやり、休みたいと言ったら休ませよ。夏は暑くないように涼しくしてやり、冬は寒くないよう暖かくしてやれ。武術や学問が嫌だというなら、無理にやらせるな。本人の望む通りに、何でも与えてやり、好きなことを好きなだけさせて、どんなわがままでも聞いてやれ。そうすれば大概の人間は駄目になる」と諭しました。

義元は、これから武士として生きていく竹千代の将来を恐れ、わがままを許して楽をさせることで、辛いことにすぐに弱音を吐き、気力のない骨抜きの人間にしようとしたのでした。義元のいう「むごい教育」とは、「厳しい教育」ではなく、「甘やかし、我慢をさせることのない教育」だったのです。

【写真：竹千代と義元〈JR静岡駅前広場〉】

「むごい教育」を今の学校教育にそのまま取り入れることはできませんし、それがそののまま通用するとも思えません。それに、私たちは武士として生きる子どもを育てていくわけでもありません。少しくらいの失敗や躓きでは諦めず、自信と希望をもって逞しく人生を歩み続けることができる子どもを育てようとしています。そのためにすべきことは何でしょうか。子どもが食事の好き嫌いを言っていたら…、ゲームや動画ばかりに没頭する生活をしていたら…、スマホがほしいと言ったら…、どうすればよいでしょうか。

子どもの心の様子をしっかりと捉えながら、時には厳しく、時には丁寧に導いていくことが、私たち大人に求められていると思います。きまりやあいさつの大切さを教え、感謝する心や我慢する心を養うこと、そして、苦しさを乗り越えて味わう爽やかさやがんばればできるという経験などを積ませてあげることが大切ではないかと思っています。子どもたち一人一人に合った方法は何かを考えながら、家庭、そして地域、学校が連携して取り組んでいきたいと思っています。令和６年もよろしくお願いいたします。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

令和5年 祝開校150周年
吉浜小学校
～ふるさとに誇りにもち、ともに学んで未来を拓く吉浜っ子～

高浜市立吉浜小学校
令和6年1月12日 №82

書き初め会

心を落ち付け、正しい姿勢で文字を記すことで、この1年のスタートをうまく切ってほしい、そんなことを願って、今年度も「書き初め会」を行いました。

子どもたちは書き初めにふさわしい雰囲気を自分たちでつくり、真剣に記していました。写真からも緊張感のある落ち着いた雰囲気が分かります。こうしてつくりあげた力作を以下の日程で体育館に展示します。ぜひご覧ください。

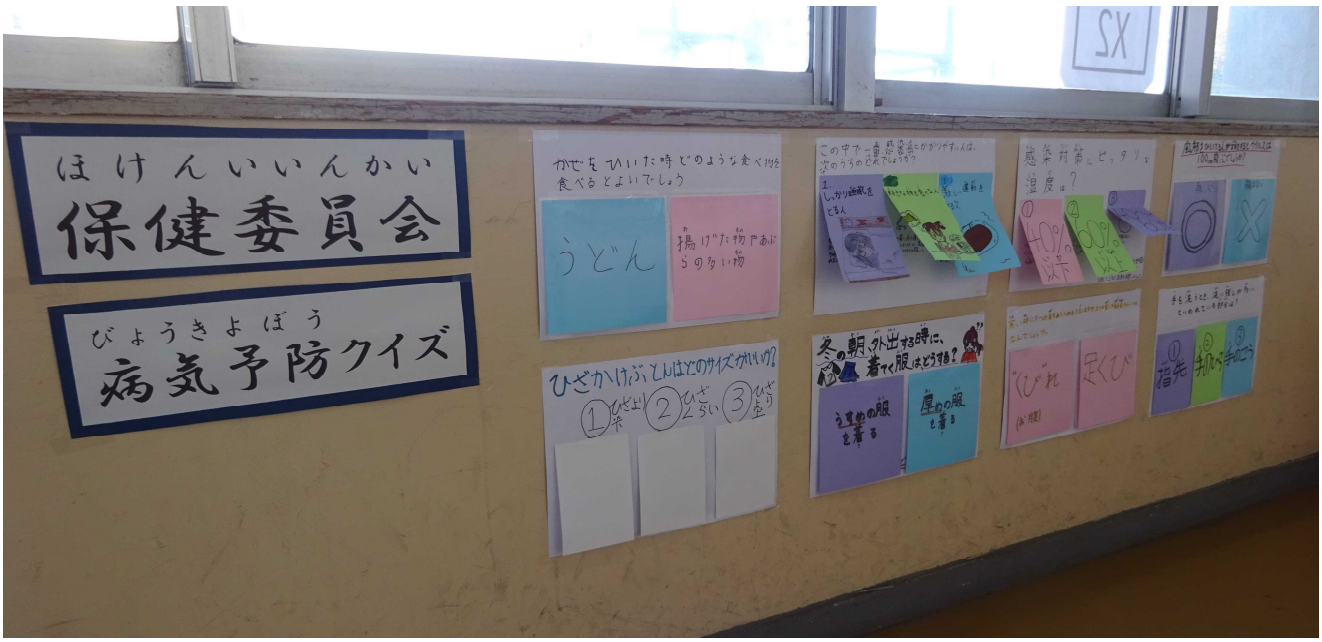
□書き初め展
日時：1月17日（水）～1月19日（金）
8時30分から17時まで
19日（金）は16時終了です

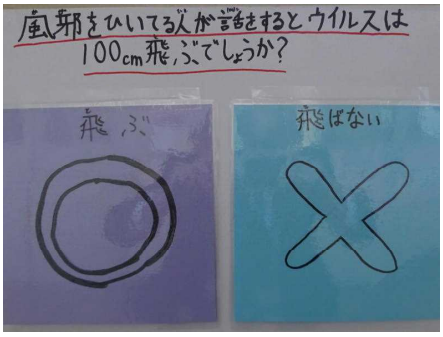
花咲く明日を
～ 吉浜小学校だより ～

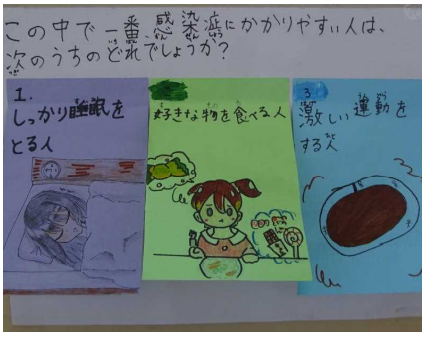
令和5年 祝開校150周年 吉浜小学校 ～ふるさとに誇りにもち、ともに学んで未来を拓く吉浜っ子～
高浜市立吉浜小学校
令和6年1月16日 №83

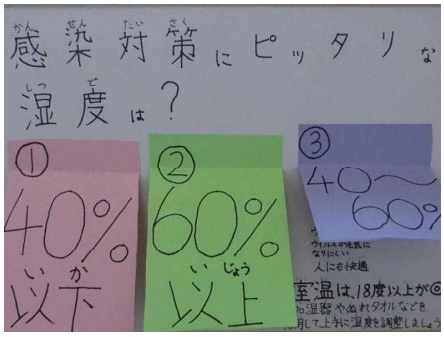
1　健康第一

今の学年で過ごすのもあと４３日（６年生は４２日；本日を除く登校日）となりました。この残り少ない日々を、健康で元気に過ごすことができるようにと保健委員会が「病気予防クイズ」を考えました。現在、保健室前の廊下に掲示されています。









放課に問題に取り組み、正解して喜んだり、間違えて、「なんで～」「そうなんだ」という表情をしたりする場面を見ます。病気の予防に興味をもち、子どもたちが自分でも気をつけようという気持ちを高めていくことを期待しています。

2　おめでとうございます

◇JA共済小・中学生交通安全ポスターコンクール
　銅　賞　6の2　谷口葵音　さん
◇第36回ライオンズクラブ国際平和ポスターコンテスト
　優秀賞　6の1　亀山姫瞬蘭さん
◇多文化共生実現に関する作品募集
　最優秀賞　5の3　村田朱音さん　　特別賞　4の2　下城智輝さん
◇高浜文集入選/みかわの子入選
　2の2　久須美日彩さん　3の1　加藤沙耶香さん　5の4　千賀允道さん　6の4　西東子龍さん
◇高浜文集入選/みかわの子特選
　1の3　柿沼美杏さん　　5の4　奥村俊輔さん
◇愛知県小学生陸上競技選手権大会

6年混合リレー	第6位	6の1	王子愛望さん
5年混合リレー	第2位	5の3	花井萌彩さん
4年女子50M	第6位	4の4	神谷朱音さん
4年女子ジャベボール投げ	第4位	4の1	松下結乃さん
4年女子走り高跳び	第5位	4の2	松下莉乃さん

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

令和5年 祝開校150周年 吉浜小学校
～ふるさとに誇りにもち ともに学んで未来を拓く吉浜っ子～
高浜市立吉浜小学校
令和6年1月18日 No.84

大谷翔平選手からの贈り物

日本のすべての小学校、約2万校にグローブを寄贈すると発表したメジャーリーガーの大谷翔平選手。この発表の後、子どもたちからは、「大谷グローブ届いた？」の声を度々聞いていましたが、本日、本校にも大谷グローブが届きました。

届いたグローブはニューバランス社製で、大谷選手が使用するモデルをジュニア用にデザインしたものとのことです。グローブには大谷選手のサインもプリントされています。以下に写真と大谷選手からのメッセージ（原文そのまま）を載せます。

学校関係者各位

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・ア　　ナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムを紹介するためのものです。

この３つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。　大谷翔平

届いたグローブは３つで、右利き用が２つ（大と小）、左利き用が１つです。３つ同じものではなく左利き用やサイズの小さいものも用意していただいた大谷選手の細やかな配慮に温かさを感じます。本当にありがとうございました。

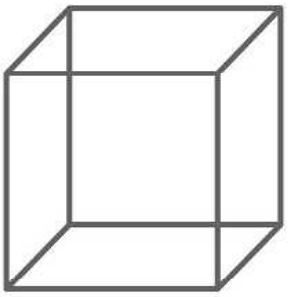
グローブの扱いについては、みんなが手に取ったり、使ったりすることができるような工夫を検討していきます。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

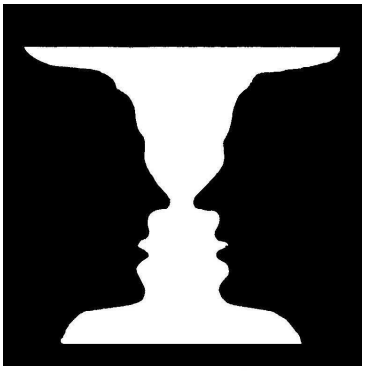
高浜市立吉浜小学校
令和6年1月22日 №85

ちょっと立ち止まって



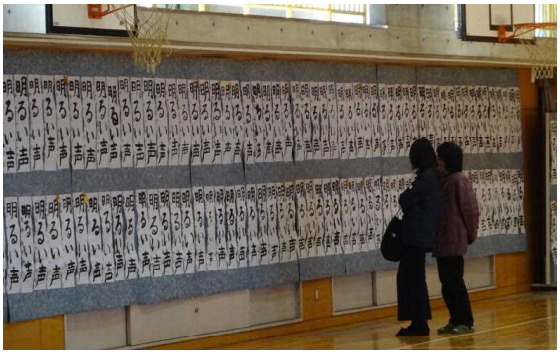
いきなりですが、右の立方体をしばらく眺めてみてください。すると、あることに気付くのではないでしょうか。この立方体、見方によって、「上の方から見た立方体」と「下の方から見た立方体」の二通りに見えませんか。そして、二つの立方体が交互に見えてくるのではないでしょうか。

また、同じような話ですが、中学校1年生の国語の教科書に、「ちょっと立ち止まって」という教材があります。「ルビンの壺（左画像上：何と何に見えるか分かりますでしょうか)」「若い女性と老婆（左画像下：若い女性、老婆が分かりますでしょうか）などの絵を示して、見方によって全く違った絵に見えるものがあることが書かれています。そして、教科書は、「私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみを捉えてその物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくる物が違う。そこで物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみたらどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう」と締めくくっています。



では、これらを、「言葉」で考えたらどうでしょうか。例えば、「うるさい」という言葉。小学生の頃、「うるさい」とよく注意をされていたことが思い出されます。今考えてみると、うるさく感じたのかもしれませんが、「元気で活発」だったのだと思うようにしています（苦笑)。同じように、「お節介」は「お世話好き」、「飽きやすい」は「いろいろなことに興味がある」とも言えるのではないでしょうか。

日本では他国に比べ自己肯定感が低く、「自分のよいところはあまりない・分からない」という子どもが増えているという報道がたびたびなされています。本校の子どもたちには自分のよいところをたくさん自分で見付けてほしいと思っています。飽きやすい人も、いろいろなことに興味があるということ。言葉や見方を換えればマイナスもプラスです。先の報道では、「子どもは自分ではがんばっていると思っているが、保護者や教員は期待が大きいのか、まだまだ、もっともっとと思っているようだ」と続けていました。子どもの視点では子どもなりにがんばっていることがたくさんあると思います。まずは認め、褒め、そして励ますこと、これが私たち大人には大切なんだろうなと考えています。

そして、子どもたちには、立方体や「ルビンの壺」などのように、捉え方や解決の方法は一つではないこと、一つの考えにとらわれず、よりよい方法を考える心の余裕をもって、人生を歩んでほしいと思っています。

【書き初め展：多くのみなさんに見ていただきました。ありがとうございました】